

有珠山の火山活動解説資料（平成26年9月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成20年6月9日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気などの表面現象の状況（図1- ~ 、図2 ~ 5）
山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、西山西麓火口群N-B火口の噴気は今期間観測されず、噴気活動は低調に経過しました。
2日に北海道、19日に国土交通省北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。目視及び赤外熱映像装置¹⁾による観測では、各火口の状況に特段の変化はありませんでした。
- ・地震及び微動の発生状況（図1- 、図6）
火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は山頂火口原直下の浅い所に分布しました。
火山性微動は観測されませんでした。
- ・地殻変動の状況（図7 ~ 8）
GNSS連続観測²⁾では、一部の基線で1977年の噴火後の山体収縮を示す地殻変動が続いていますが、火山活動の高まりを示すような地殻変動は認められませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

今回の火山活動解説資料（平成26年10月分）は平成26年11月11日に発表する予定です。

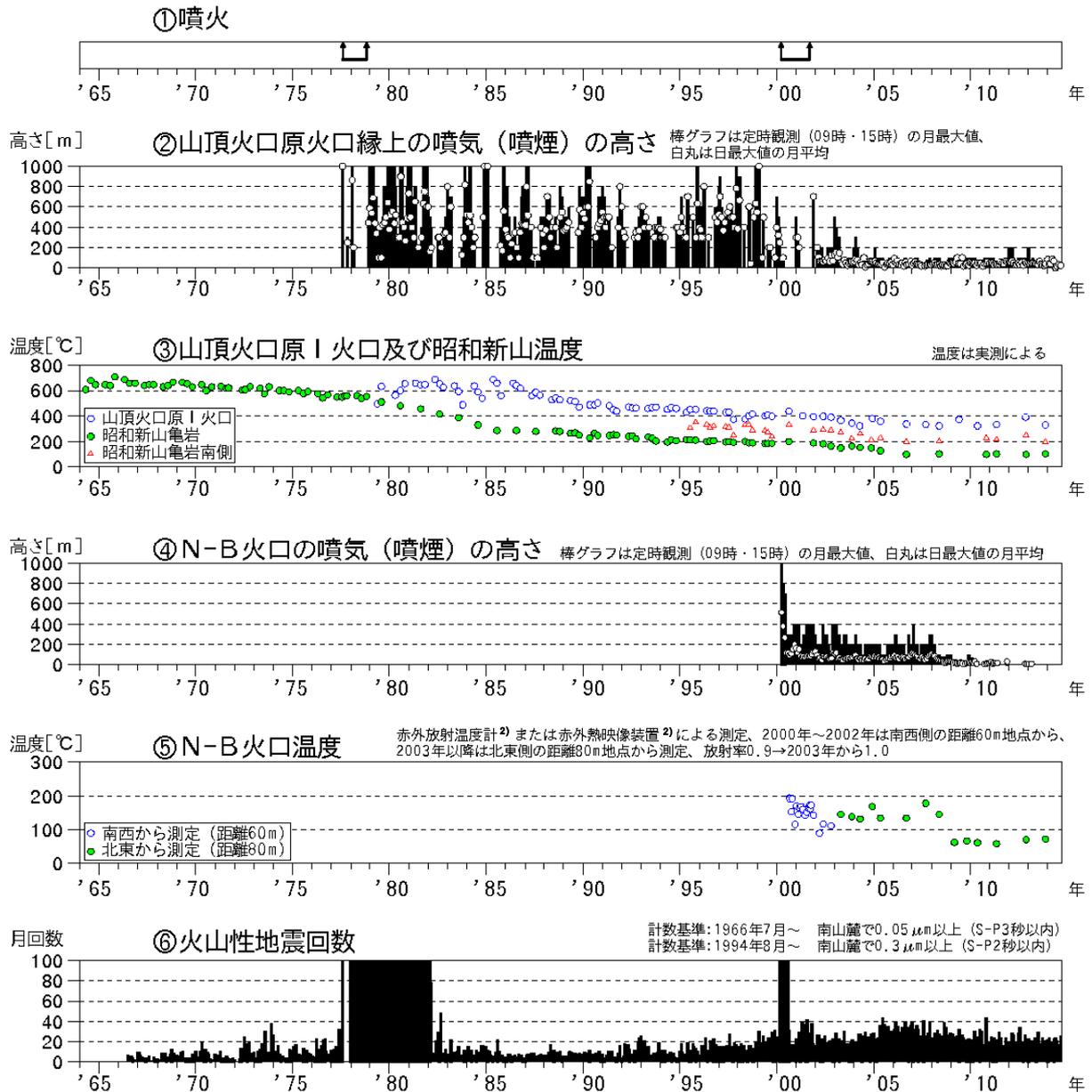


図1 有珠山 火山活動経過図（1964年1月～2014年9月）
印で挟まれた期間は噴火活動期を示します

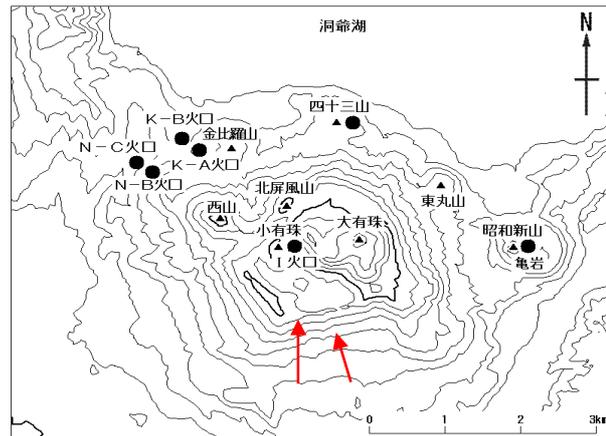


図 2 有珠山 火口周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）



図 3 有珠山 山頂火口原の状況
南側上空（図 2 の 矢印方向）から撮影

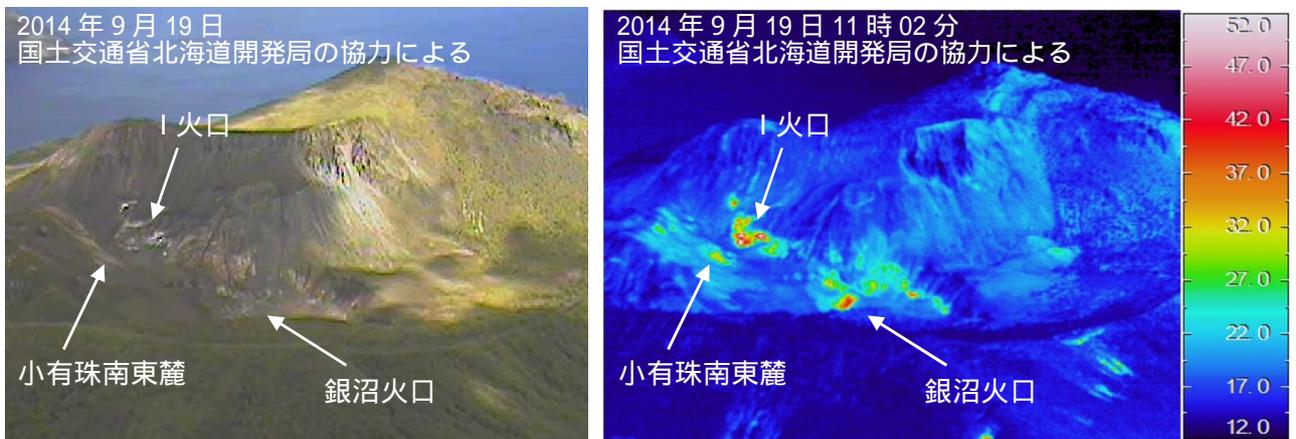


図 4 有珠山 山頂火口原の地表面温度分布 南側上空（図 2 - 方向）から撮影



図5 有珠山 北西側から見た山体の状況（9月17日、月浦遠望カメラによる）

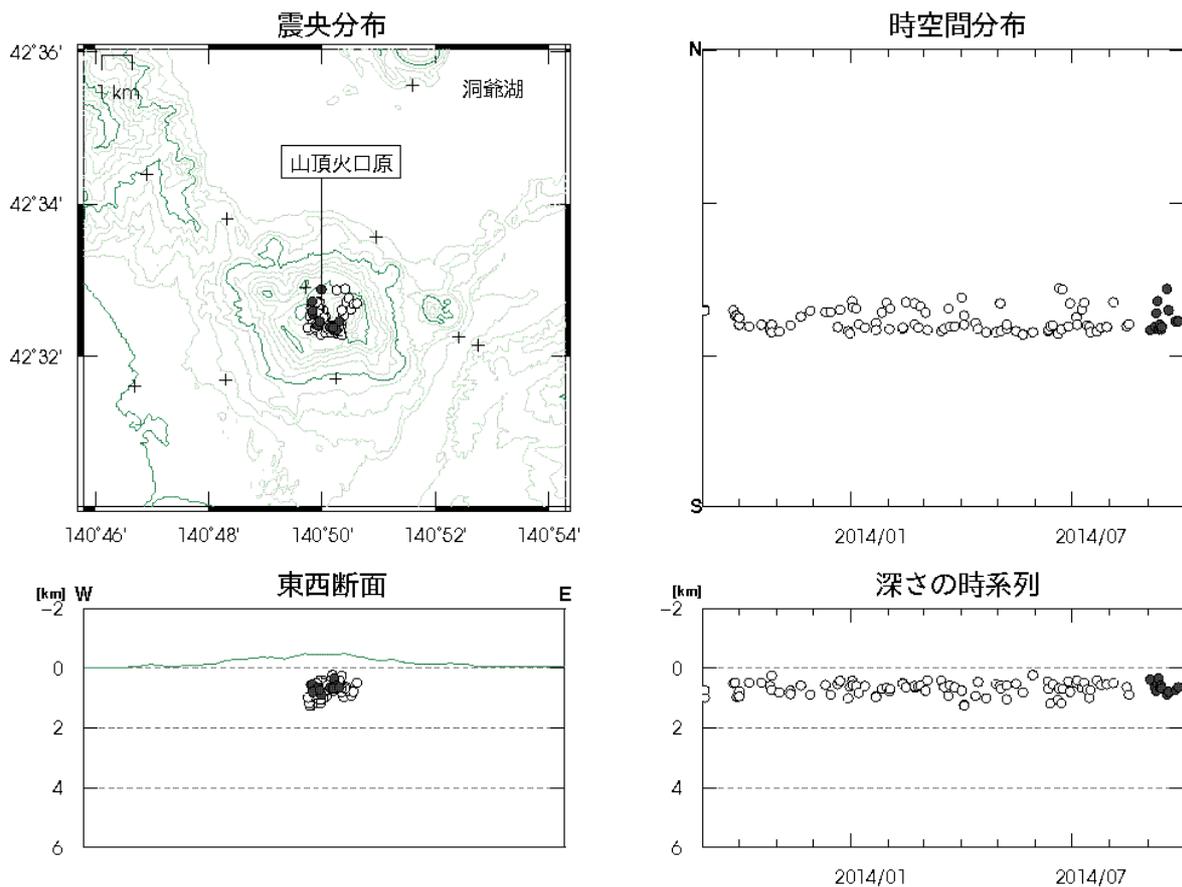


図6 有珠山 火山性地震の震源分布（2013年9月～2014年9月）

印：2013年9月～2014年8月の震源

印：2014年9月の震源

+ 印：地震観測点

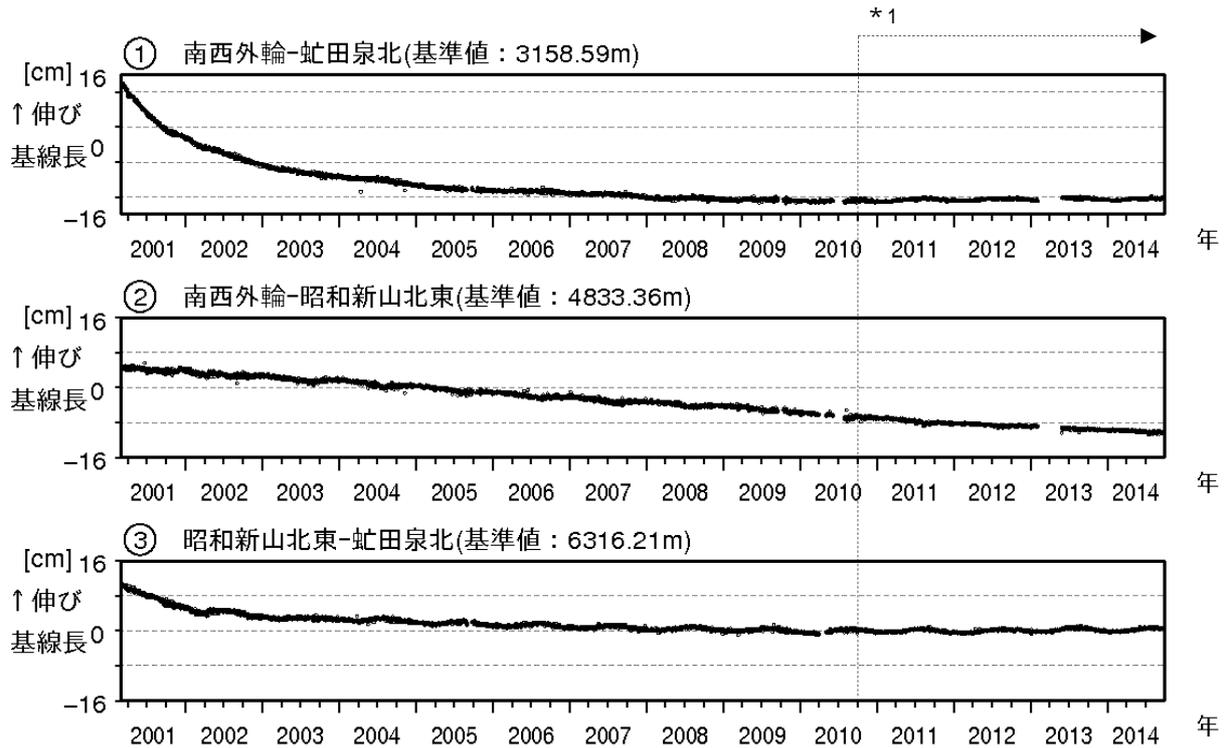


図7 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化(2001年4月～2014年9月)

- ・GNSS基線 ~ は図8の ~ に対応しています
 - ・GNSS基線の空白部分は欠測を示します
 - ・2000年の噴火後の収縮は見られなくなっています
 - ・の基線では1977年の噴火後の収縮傾向が続いています
- * 1 : 2010年10月以降のデータについては、解析方法を改良して精度を向上させています

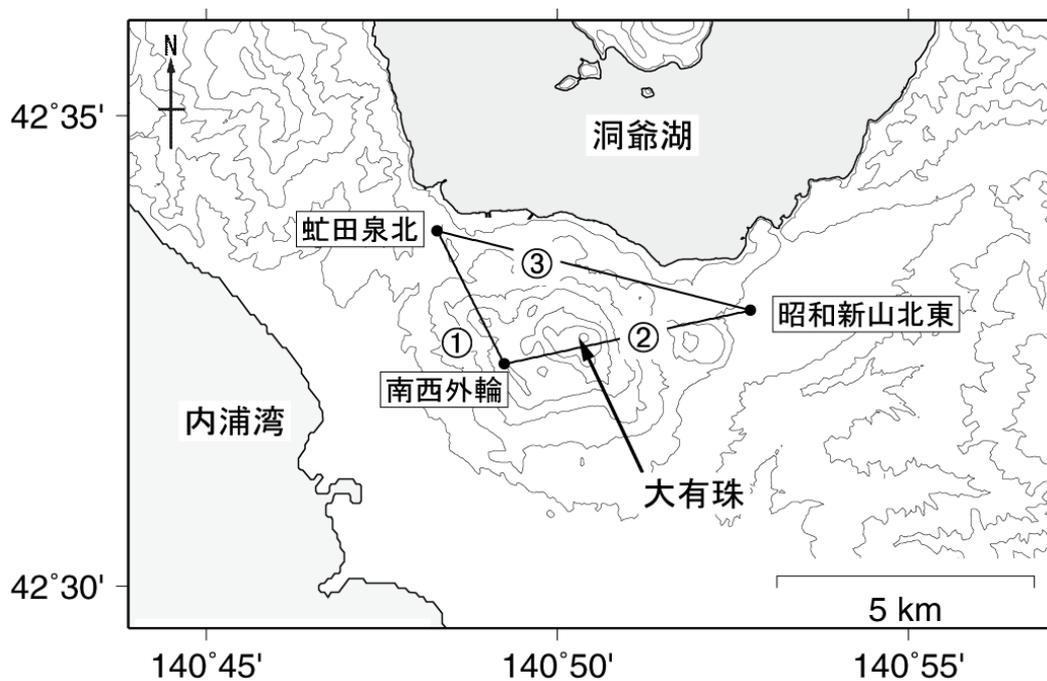


図8 有珠山 GNSS連続観測点配置図

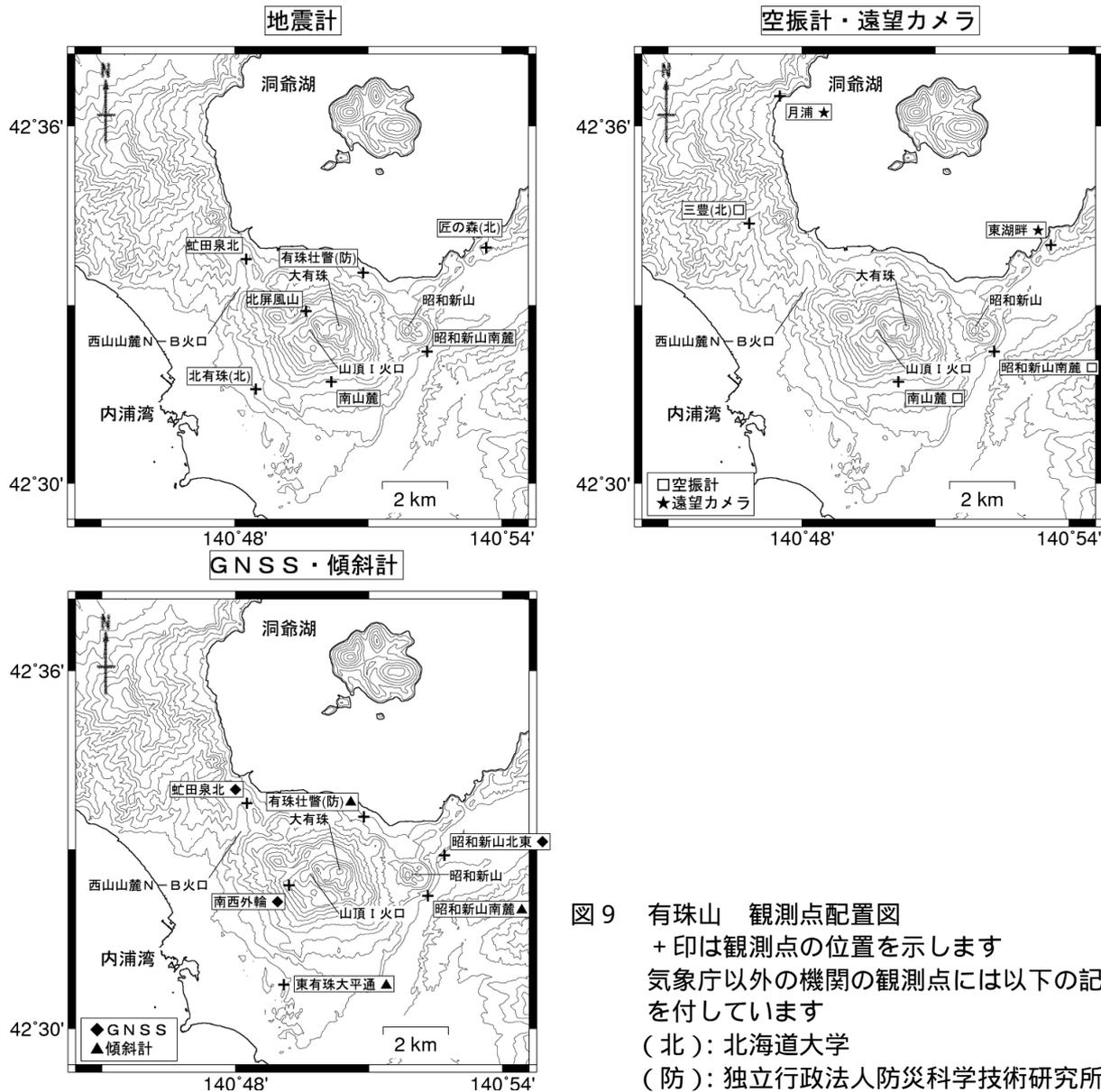


図9 有珠山 観測点配置図
 +印は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (北): 北海道大学
 (防): 独立行政法人防災科学技術研究所